

問題一

問一	ア	眺	イ	包括	ウ	繰	エ	履	オ	光景
	<p>互いに何かを伝えあい、コミュニケーションをするきっかけとして、桜をぜひ見てほしいと思っ ているような意味が込められている。</p>									
問二	<p>人間以外の動物のコミュニケーションが、無意識の振る舞いに機械的に反応するに過ぎないの に対して、人間の場合は、話し手が意図的に何かを意味し、聞き手はそれを理解することを相互に 繰り返すということ。</p>									
問三	<p>親は傘を持っていくべきという意味を子供に伝えようとしているが、傘という言葉を用いなくて も、また、無言で窓の外を指差して雨が降る光景を見せるという仕方でも、子供はその意味を理 解できるという例。</p>									
問四	<p>何らかの言語や身振りを介す必要があるので、制限つきではあるが、意味されている内容に明白 な対応を持つものは何も介在していないように見えるにもかかわらず、意志疎通が生じるという 不可思議で、驚くべき能力を私たちが持っていることを表現しようとしているから。</p>									
問五	<p>何らかの言語や身振りを介す必要があるので、制限つきではあるが、意味されている内容に明白 な対応を持つものは何も介在していないように見えるにもかかわらず、意志疎通が生じるという 不可思議で、驚くべき能力を私たちが持っていることを表現しようとしているから。</p>									

問題二

問一	<p>名前のせいで自分のイメージが固定されてしまい、服装をはじめとして一定の型にはめられ、 行動の自由も心理的に妨げられてしまいそんなことを嫌う気持ち。</p>
問二	<p>名前を枷だと捉えて嫌っているのと同様に、服装もさまざまなものを身に付けることで、自分 の人物像や印象を決めつけられないようにしようと考えているから。</p>
問三	<p>十五歳の時の大事故で、それ以前の記憶をなくして名前から自己認識することができなくなっ ていたが、仮死状態から生き返った後に結婚し、新しく得た名前に違和感を持つことはない ということ。</p>
問四	<p>自分がどういう人間であるかを他人から固定観念をもって判断されたくないため、自分のアイ デンティティを象徴してしまうような、個人識別の最たるものである下の名前を使わないよう にしているというこだわり。</p>

問題三

問一	ア	全く返事がない
	ウ	返事ができない
問二	エ	さほど身分の低くない人
	イ	とやかく言わないで
問三	<p>親が姫君を大事に守り育て申し上げていて、人目があるので、姫君とうまくやりとりができないと現状を理解していた。</p> <p>今頃は、はき捨てた庭の屑になって積もっているだろうか、読む人もいない私の手紙は。</p>	
問四	<p>姫君本人にはもともと貴族の女性としての教養がなく、歌も詠めず字も下手なので、最初は代筆を頼んでいた。ところがその人物がよそに行ってしまう、素養のない姫君自身に返事をする方法がなくなったから。</p>	

問題四

問一	ア	<p>疏広は、自分の家に黄金の余りがまだどれくらいあるのかをたびたび尋ね</p> <p>疏広が皇帝からいただいた黄金を、人を招いての酒食に使い果たしてしまう前に、田や家を買わせて子や孫の財産にしようとしたから。</p> <p>われあにらうはいしてしそんをおもはざらんや。</p> <p>疏広の老後のために皇帝が下さった黄金があると、子や孫が怠惰になり、人々から恨まれるので、人々をもてなして酒食に黄金を使い切り、楽しく余生を尽くすこと。</p>
	イ	
	ウ	
	エ	
問二	<p>疏広は、自分の家に黄金の余りがまだどれくらいあるのかをたびたび尋ね</p>	
問三	<p>疏広が皇帝からいただいた黄金を、人を招いての酒食に使い果たしてしまう前に、田や家を買わせて子や孫の財産にしようとしたから。</p>	
問四	<p>われあにらうはいしてしそんをおもはざらんや。</p>	
問五	<p>疏広の老後のために皇帝が下さった黄金があると、子や孫が怠惰になり、人々から恨まれるので、人々をもてなして酒食に黄金を使い切り、楽しく余生を尽くすこと。</p>	